

第8回登別市史編さん委員会 協議概要

日 時 令和元年7月24日 午後1時30分～

場 所 市役所第3会議室

出席者 委 員 出席7名、欠席3名
事務局 3名

1 諸報告

(1) 市史編さん専門員・佐藤卓也の自己紹介

(2) 編集委託業務の受託業者の決定

5月21日3社による指名競争入札を行った結果、(株)ぎょうせいが落札し、契約を締結した。

(3) 町内会等での講演

ア 6月6日

札幌のぼりべつ会会員を対象に市史編さんの取組、札幌市近郊に有る登別市に関連する場所を紹介した。

イ 7月14日

若緑会（若山町および緑町の老人クラブ）定例会で、市史編さんの取組や片倉家、若山町・緑町の歴史を紹介した。

(4) 石碑調査

7月18日に第一滝本館の中庭にある「山神」碑（滝本金蔵建立）を調査する。また、同館所蔵の山下清による色紙、松林桂月の書道及び絵画、東郷青児の絵画、棟方志功の鯉の絵などを拝見した。

(5) 金井抱二日記の読解について

『市史ふるさと登別』の記載内容に疑義を呈された部分について優先的に読解を進めた結果、次の部分が読解済みとなった。今後は残りの部分の読解を進める予定である。なお、読解への参加者は、登別市民2名、室蘭市民3名、伊達市民1名の計6名である。

- ・明治40年4月18日から5月15日まで
- ・明治44年1月1日、同44年4月29日から6月1日まで
- ・現在は明治45年分の読解を進めている

2 協議事項

(1) 『新登別市史』執筆要領の一部改正について

- ・日時や数値等の表記には算用数字を用いることとした。
- ・アイヌ語地名の表記は『幌別町のアイヌ語地名』を参照することとした。
- ・図表の番号は、章番号に枝番号をつけて管理することとした。

<質疑応答>

(事務局)

日時や数値等の表記は漢数字によることとしていたが、新聞等日常的に用いられている算用数字に改めることで読者の視認性を高めることとしたい。

『幌別町のアイヌ語地名』については、第1回や第2回の市史編さん委員会の会議で意見が出されていたもので、執筆要領に明記することとしたい。

図表番号については、章ごとに管理することとし、章番号に枝番号を付すこととしたい。

(委員)

算用数字を用いることに異議は無い。

それとは別になるが、令和に改元される際に西暦表記のことが世上で話題に上がった。今回の市史での西暦での表記を含めて年の表記に対する考え方はどのようなになるか。

(事務局)

原則として和暦によるものとし、その節又は段落の初出については西暦を併記する取扱としたい。その後の部分については、全てに西暦を併記すると、本文が読みづらくなる可能性があるため、基本的には併記しない。ただし、初出から離れた場所や年数が大幅に経過した部分については、併記することを検討したい。

(委員)

図表番号については、章ごとに管理することが望ましい。途中での入れ替え等をする際に図表番号を全て変更する必要がなくなるからである。

(2) 原稿の組版について

出席した委員全員合意でA案とした。

<質疑応答>

(事務局)

配布したA案、B案の2案を見比べてほしい。

両案の違いは小見出しを付ける位置である。A案は、1行目の頭に小見出しを置く方式で、他の市町村史ではこの方式が多い。B案は、1行目の前の行に小見出しを置く方式である。どちらの方式が良いかの意見をお伺いしたい。

(委員)

私はA案が良いと思う。

B案には、節の間に余裕があるが、市町村史などページ数が多くなると、その余裕が積み重なってページ数が多くなる要因となる。

※その他の出席した委員全員からも「A案が良い」との意見であった。そのため、組版はA案を採用することとする。

3 その他

(委員)

改めて編目構成を確認したいので、執筆担当者名も付したものを配布してもらいたい。

(事務局)

後日、各委員に配布する。

(委員)

印刷製本までの予定を再度確認したい。

(事務局)

令和元年10月	受託者による原稿校正開始
令和2年 3月末	入稿
4月から	印刷製本作業開始
6月末	納品
8月	刊行

といった予定である。

(委員)

刊行する部数と販売する際の価格は

(事務局)

刊行予定部数は500部である。このうち半数を贈呈分とし、残りを販売する予定である。

販売価格については、今後正式に決定しなければならない事項であるが、現時点では未定である。

(委員)

市史編さん事業で収集した資料は、多くの市町村でその後の管理状態が悪く、散逸した事例もある。そのような状態になることは避けて欲しい。

(事務局)

現在、新聞記事の見出しの目録化を進めており、それが完了後、収集した資料の目録化を行う予定である。

紙ベースの資料は、現物を保管するとともにスキャンしたデジタルデータも保管したいと考えている。収蔵先は、教育委員会と協議して決定していきたい。

(委員)

前回は、概要版（『やさしい史話 登別の歴史』）も刊行しているが、今回はその予定があるのか。

(事務局)

現時点では検討をしていない。前回も市史の刊行後約1年を経て刊行している。現状としては『新登別市史』の完成を優先し、その後、刊行するか否かの協議を行いたい。

(事務局)

登別市が主催するものではないが、現在、北海道博物館で「アイヌ語地名と北海道」と題する特別展が開催されている。同展では、登別にゆかりのある山田秀三に関するコーナーもあるので、ぜひ観覧していただきたい。なお、展示品目は前期と後期で一部入れ替えがあるとのことなので、ご注意ください。

(委員)

アイヌ語地名に関連して、知里真志保を語る会が主催して「登別のアイヌ語地名めぐり」を8月3日(土)に開催する。今回は胆振幌別川沿いを巡る予定である。まだ若干余裕があるので、参加を希望する方は申込みいただきたい。

(委員)

登別郷土文化研究会でも7月24日(月)午後2時から市民会館で「登別アイヌ境界と知里真志保を語る会の歩み」と題して文化講演会を開催する。こちらも興味のある方は参加いただきたい。